

全技連マイスター会専門委員会答申

10年後を見据えた10の提言—NEXT 10— 概要版

1. 諮問事項：全技連マイスター会の次の10年を見据え、①若年者への技能継承の重要性の周知・方策 ②全技連マイスター会のブランド化につき、調査検討をされたい。

2. 10の提言

- (1) 若年者への技能継承の重要性の周知・方策について \*本委員会は、「若年者」を、今後キャリアプラン形成期を迎える小中学生等とした

【提言1】 全技連マイスター会員の「ものづくり教育」指導書作成への参画

教育現場では「ものづくり」の専門的知識・経験を活かした指導書・教材作成が十分ではない

- ⇒
- ・ 「ものづくり教育」支援のためのネットワークを構築し、会員の専門家としての知識・経験を活かした指導書・教材作りに参画する
  - ・ 各県マイスター会が、主体的に指導書・教材作りを行うことも考慮する

【提言2】 マイスター講師名鑑の作成・提供とベテランマイスターによる出前講座隊の結成

教育現場では「ものづくり」の実戦経験豊かな講師情報・人材確保が困難である

- ⇒
- ・ 教育施設での講師を希望する全技連マイスターの名鑑を作成・提供する
  - ・ 小中学校の「ものづくり教室」での、“継続的に指導の出来るベテラン指導者要望”に応え、「ベテランマイスター出前講座隊」を結成する

【提言3】 全技連マイスター技能の映像化及び教育（類似）施設での活用

ものづくり体験が少なくなっている小中学生にとって、ものづくりの魅力を取り上げたTV番組などは、優れた教材になっている

- ⇒
- ・ 地方公共団体と連携し、全技連マイスターの優れた技術を映像化し、教材として積極活用を図る
  - ・ メディアと連携し、TV番組で全技連マイスターの優れた技術を、全国紹介する

【提言 4】 外部資源活用のための財源の確保

教育現場の周囲には、ものづくりのための人材・情報・設備等の外部資源が存在するものの、それを活用する財政的手当てが十分ではない

- ⇒
- ・ 経済団体・企業等との連携で、全議連マイスターによる「ものづくり講座」を開講する
  - ・ 地方公共団体による「ものづくり事業」の拡充を求めると共に、当該事業への積極的に会員参加を図る
  - ・ 地方公共団体・国による「ものづくり」啓発活動の活発化と、事業予算の拡大・拡充を求める

(2) 全技連マイスター会のブランド化について

【提言 5】 会員の公募方式による統一標語の作成とその活用

全技連マイスター会のブランド化には、全技連マイスター会の活動がわかる標語を設けることが効果的だが、現在は無い

- ⇒
- ・ 全技連マイスター会・各会員の活動をわかる“統一標語”を作成し、日常活動で常用する
  - ・ 国直外を問わず、多くの人々が理解しやすい標記・表現に留意する
  - ・ 統一標語は、連帯感の醸成・会員のセンス活用のためにも、全技連マイスター会員の公募により作成する

【提言 6】 公的施設との連携による「全技連マイスター会」ブランドの周知

全技連マイスター会ブランドの周知には、会員個々の努力では十分な効果は得られない

各都道府県は、物産館設置等により、県のPRに努めており、会員製品の展示販売もしているが、「全技連マイスター会」の名前は見かけない

- ⇒
- ・ 各県商工会議所・物産館等と連携し、全技連マイスター会の標語・ロゴマーク等を掲示する

【提言 7】 公的機関との連携によるCSRの実行

会員の、技能伝承・後継者育成を通じたCSR(社会貢献活動)を継続的に行うことが、全技連マイスター会のブランド価値を高めることになる

- ⇒
- ・ 公的機関との連携により、ものづくりワークショップの開催、小中学校における「ものづくり教室」の開講等、CSRを継続的に実行する

【提言 8】 全国技能士会連合会ホームページを活用した会員及び作品の紹介・頒布

全技連マイスター会・会員の活動を広く認知してもらうためには、紹介のための手段を多く持つことが効果的である

- ⇒
- ・ 全技連ホームページに全技連マイスター会・会員紹介コーナーを設け、各会員のプロフィール・作品紹介等を行う
  - ・ 将来的には、広く国内外に向け、会員製品のインターネットショッピングを可能とさせる等、ホームページの更なる充実を図る

【提言 9】 オリンピックを契機とした“COOL JAPAN”の紹介

“ものづくり”が生み出す、長い伝統に培われ、しかも現代生活にマッチした製品は、訪日外国人に“COOL JAPAN”を提供する  
オリンピックは、全技連会員の傑作を訪日外国人に触れてもらう絶好のチャンスである

- ⇒
- ・ 日本政府観光局・日本貿易振興会等の協力を受け、全技連マイスター会ブランドの海外紹介を行う
  - ・ 将来的には、在外の公的機関・施設での全技連マイスター作品の常設展示等を目指す

【提言 10】 今後の 10 都市に向けた「匠の技」フェアの再構築

全技連マイスター会の更なる発展のため、会の重要イベントである「匠の技」フェアの再構築が求められている

- ⇒
- ・ 多くの人々の“ものづくり”への興味・関心を喚起する場としての「匠の技」フェアに留めず、マーケットリサーチ、ビジネス機会拡大のためのネットワーク構築の場の要素を付加する＝新「匠の技」フェアへの再構築
  - ・ 新「匠の技」フェアの再構築に際しては、事業の共同化・運営組織の拡大統合・展示販売品の変更・運営資金の共同出資・参加者の拡大・新しいフェアに対応した会場と時期の変更等の検討が必要である
  - ・ 新「匠の技」フェアの円滑実施のため、実施可能の地域での先行的試行を実施する。  
⇒ オリンピックを迎え、全世界の注目を浴びる東京において、新「匠の技」フェアの先行試行をする価値がある。

- \* 答申は、①調査検討の概要 ②「10年後を見据えた10の提言—NEXT 10—」 ③むすび の3章構成となっている  
この答申概要版は、このうち、答申の中心である第2を要約・略記したものである。